

<編集後記>

通常よりも若干遅れてということになりましたが、初年次教育学会誌を会員の皆様のお手元にお届けいたします。

本号では2016年9月に四国大学で開催されました第9回大会での特別講演と課題研究シンポジウムの概要を掲載しております。特別講演では複数の大学でコンサルタントも行っておられる山内大地先生に高大接続を視野に入れた初年次教育の在り方についてご講演いただきました。山内先生のご了解を得たうえで編集委員会の責任で作成した要旨を掲載しております。課題研究シンポジウムでは3年にわたる研究計画の初年度として「初年次教育の評価：プログラムとしての評価，学生をどう評価するのか」と題して、関西国際大学、四国大学、ならびに九州大学の事例をご紹介いただいております。

さて学会誌の本分は会員の研究成果をまとめた研究論文，実践を踏まえた実践研究論文を掲載することを通じて，学会の現在の研究水準と研究動向を示すとともに今後必要とされる研究の方向性を示すことではないでしょうか。今号では研究論文について2本，事例研究論文について6件の投稿がございましたが，厳正な査読の結果いずれの論文も掲載の水準に達していないと判断されました。結果的に本号には研究論文も実践研究論文も掲載されておりません。私ども編集委員会はもちろん，本学会理事会でもこれは由々しき事態であると認識されております。過去の学会誌編集後記でも言及されておりますとおり，投稿にあたっては，執筆要領と執筆用テンプレートに記されている書式等を遵守しつつ，さらに藤田哲也会員が本誌第7巻第1号に寄稿されている「初年次教育学会誌への投稿論文執筆について」を是非ご確認いただければと存じます。

一方で，本号では自著紹介を9件掲載することができました。学会会員の研究・実践の成果が共有され，研究も実践もさらに深まっていくことが期待されます。次号以降でもぜひ自著紹介をご投稿ください。お待ちしております。

本学会では学会誌編集委員会を6名の会員で構成しております。各編集委員の任期は4年で，2年ごとに3名ずつが交替しております。本号の編集をもって笹金光徳前委員長，絹川直良前副委員長，および塚原修一委員が交替となります。3名の先生方にはこの4年間のご尽力，特にこの1年は不慣れな新編集委員長の業務を丁寧にサポートしていただきましたことに御礼申し上げます。また横山千晶委員と望月由起委員には引き続き委員会業務にご尽力いただきますが，よろしく願いいたします。

なお査読におきまして編集委員以外の多数の学会会員にご協力いただきました。名前は公表しておりませんが，ご協力いただきましたこと，改めて深く御礼申し上げます。

学会誌編集委員会を代表して 沖 清豪